

令和5年1月23日

福岡県教育委員会教育長 殿

所属校名 太宰府市立太宰府中学校  
職・氏名 教諭 梅野 真愛  
指導者名 吉川 裕二  
高藤 慎一郎

### 研修最終報告書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

#### 記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡中学校研修員
- 2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡中学校  
〒810-0061 福岡市中央区西公園12番1号  
電話番号 (092) 771-8381  
FAX番号 (092) 732-1147
- 3 研究主題及び副主題

言葉に立ち止まり読みを深める生徒を育成する国語科学習指導法の研究  
～読みの視点を焦点化する課題設定と三角ロジックシートの活用を通して～

#### 4 研究内容の概要

##### (1) 研究の目標

中学校国語科学習指導において、言葉に立ち止まり読みを深める生徒を育成するために、読みの視点を焦点化する課題設定と三角ロジックシートの活用の在り方について究明する。

##### (2) 研究の仮説

中学校国語科学習指導において、読みの視点を焦点化する課題（単元を貫く課題と Which 課題）を設定し、三角ロジックシートを活用して自らの読みを推敲させることによって、生徒は読みの変容や根拠の強化を自覚し、言葉に立ち止まり読みを深めるようになるであろう。

##### (3) 主題設定の理由

「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められたとする「令和」の世に必要なものは、人と人が互いの思いや考えを伝え合い、尊重し、心を通わせることであると考える。文化審議会国語分科会「分かり合うための言語コミュニケーション(報告)」(2018)によると、「膨大な情報に常時さらされている私たちは、それらの言葉一つ一つについて、意味を深く考えたり、味わったりすることに難しさを覚える状態にあると言える。」「価値観が多様化し、共通の基盤が見つげにくくなるおそれのあるこれからの時代においては言葉によって、考え方や気持ちを表し、互いに対する理解を深めていくことが欠かせない。」とある。膨大な情報にさらされる中において、価値観の異なる他者と心を通わせるために、相手が用いた言葉の意味を多面・多角的な視点から想像してその思いを感受したり、自らの思いを表現するのにふさわしい言葉を選び、相手に伝わるように推敲した上で言葉を紡いだりする力が求められている。そのためには、言葉に着目して文章を読み、多面・多角的な視点から検討することで、自らの読みが変容したり根拠が強化されたりする学習体験を繰り返し、言葉に立ち止まる価値を実感させることが重要であると考えた。また、現行の中学校学習指導要領国語科の目標において、「生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方などに着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」が明記されている。つまり、

「読むこと」の内容領域において、一読の解釈に止まらず、言葉を捉えたり問い直したりする活動を位置づけることが生徒の言葉への自覚を促すことにつながるのである。日本学術会議言語・文学委員会「言語・文学分野の展望」(2010)によると、「文学作品は様々な相の言葉を自由に選び、その間を自由に行き来し、更にそれらを自由に混在させて、新しい表現力を持った言葉を造る。」とある。つまり、文学作品には、思い描いた世界を描き出すために作者が厳選し、こだわりをもって紡いだ言葉、辞書にある意味だけでなく、新たな表現力を有した言葉が記されている。したがって、一読の解釈に止まらず、言葉を捉えたり問い直したりすることで新たな解釈を広げたり深めたりすることができる。そこで、本研究においては、文学的文章の読解を学習の中心に据えることとする。このように、「読むこと」の学習を通して、言葉に立ち止まる価値を実感させたいと考え、本主題を設定した。

#### (4) 主題・副主題の意味

##### ① 主題について

「言葉に立ち止まる」とは、言葉に着目し、文脈の中での表現を分析することである。言葉の意味や順序、他の言葉との相互関係など、言葉を多面・多角的な視点から捉えたり問い直したりすることで新たな解釈が生まれる。その際、描写に着目するとともに、その中の単語文節レベルの微細な言葉に着目する必要がある。言葉に着目して内容にアプローチすることで、一読ではわからなかった内容を捉えたり、新たな意味や魅力を認識したりすることができる。

「読み」とは、言葉から受け取ったイメージを言語化し、解釈した自分の考えのことである。田近(2012)は、「読み」を、「言語的資材の文章に意味づけし、文脈化して、読者の内に本文を生成せしめる行為である。」としている。同じ言葉であっても、用い方によって違う意味が生じ、その捉え方は個人の経験や感性に応じて変化する。「読み」は読者によって言葉に意味づけがなされ、生み出されるものであるがゆえに、読者のイメージと結びつきが強く、言葉に着目する視点次第で大きく変わり得るものである。

「読みを深める」とは、文脈の中での言葉に対する自らの考えを改めたり、その根拠を強化したりすることである。エリン・オリヴァーキーン(2014)は、「深く理解するためには、表面のレベルからさらに突っ込んで深い意味を探るために、探求する機会をいくつも設けながら、メディアをさまざまなやり方で追体験する必要がある。」と述べている。一読の解釈に止まらず、言葉を多面・多角的な視点から捉えたり問い直したりして繰り返し読みを再構築させる必要がある。

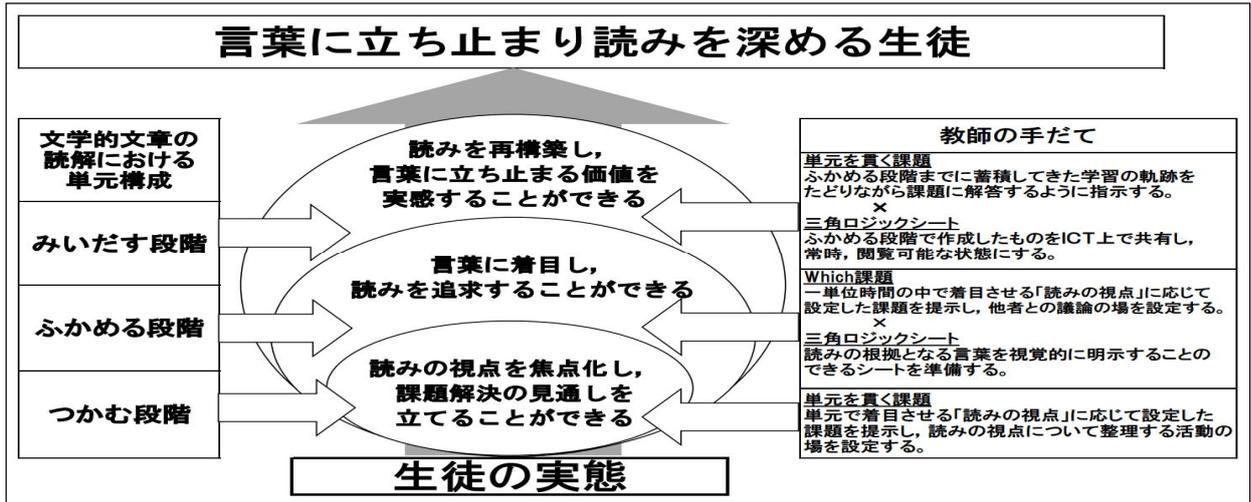
##### ② 副主題について

「読みの視点」とは、文学的文章を構成する様々な要素のうち、文脈の中の表現を分析する際に必要な観点のことである。例えば、登場人物の相互関係や情景描写などがある。鶴田(2003)は、文学の授業で指導すべき内容を、教材内容、教科内容、教育内容の三層に分類し、教材内容をふまえた上で教科内容を指導する国語科としての使命について述べている。他の文章にも活用可能な読みの視点を習得させるために、教材を取り扱うという立場から、学習指導要領や生徒の実態をふまえた上で、「読みの視点」を設定する。

「読みの視点を焦点化する課題設定」とは、単元及び一単位時間の中でねらいとする「読みの視点」に目を向けさせるための「単元を貫く課題」と「Which 課題」の設定のことである。ここでの「単元を貫く課題」とは、単元で着目させる「読みの視点」に生徒の目を向けさせるための課題のことである。「つかむ」段階で提示し、「ふかめる」段階で追求した読みをもとに、「みいだす」段階での解決を求める。また、「Which 課題」は、生徒が選択・判断する場面を設定し、一単位時間の中で着目させる「読みの視点」に応じて読みを追求させるための課題のことである。単元を貫く課題の解決に向けて、言葉の意味や使われ方について検討しながら、自らの読みを表出し、他者の読みと比較することで、自らの読みの変容や根拠の強化を目指す。

「三角ロジックシート」とは、読みの根拠となる言葉を視覚的に明示することのできるシートのことである。本研究においては、「Which 課題」に対する解答を「主張」に入力し、その根拠を「事実」と「理由付け」に分けて記述させる。「事実」には、文中の言葉を書き抜き、そこから導き出される解釈を主張につながるように「理由付け」に記述させる。このカードは、ICT教具であるロイノートで作成し、共有機能を使って適宜小集団や学級全体で共有するなど、「ふかめる」段階と「みいだす」段階で活用し、読みの再構築につなげさせる。

(5) 研究構想図



(6) 検証の方法

- 学習プリントやロイロノートカードなどの内容分析，抽出生徒の様相観察及び分析

(7) 実践と考察（実践1）

- ① 単元名「ビブリオバトルでチャンプ本を目指そう」
- ② 授業の実際

本単元では、言葉を根拠として登場人物の相互関係を捉え、その内容を反映した紹介原稿を作成させることをねらいとした。そのためにまず、「つくる」段階として、「単元を貫く課題」を提示した上で、ビブリオバトルでおすすめしたい短編小説について、各個人の学習経験や知識をもとに紹介原稿を書かせた。次に、「鍛える」段階として、登場人物の相互関係に着目して言葉を捉えたり問い直したりすることで、読みの変容や根拠の強化を実感させるために、『空中ブランコ乗りのキキ』について、「この作品に3人の登場人物は必要か」、「3人の登場人物がキキの決心に与えた影響の度合い」という二つの「Which 課題」を提示した。その上で、個人で読みをまとめさせ、それを小集団や学級全体で比較した上で、再度自分の読みについて整理させた。最後に、「働かせる」段階として、単元の始めに読んだ短編小説について、登場人物の相互関係という視点から再読させ、紹介原稿を付加修正させた上で、ビブリオバトルを実施した。

③ 成果と課題（○は成果，●は課題）

- 「鍛える」段階において、「Which 課題」を提示したことは、読みを表出しやすくさせ、互いの立場を明確にし、議論の活性化につながった。複数の立場から議論させることで、多面・多角的な視点から読みを再構築させることができた。また、同じ「Which 課題」に協働学習の前後に解答させたことは、変容や根拠の強化を自覚させる上で有効であった。
- 「つくる」段階において、各個人の学習経験や知識をもとに紹介原稿を書かせたため、書くことが苦手な生徒は何を書くべきか悩む様子が見られ、単元への学習意欲の低下につながった。
- 「鍛える」段階において、「Which 課題」を提示し、議論の場を設定したことは、「読みの視点」である登場人物の相互関係に関する描写を根拠とさせることにはつながったが、文中の言葉を根拠としたことを明確に表出することができた生徒は5割程度であった。
- 「働かせる」段階において、「鍛える」段階で取り上げた「読みの視点」から自分のおすすめしたい短編小説を再読させ、紹介原稿を付加修正させたことは、「つくる」段階で登場人物の相互関係に着目せずに、他の視点にこだわりをもって紹介原稿を作成していた生徒の思考の文脈を軽視することになった。

④ 実践1から実践2への変更点

- ・ 実践1では、学級内共通の文学的文章の読解を通して、言葉を根拠としながら、視点を焦点化して読みを深める力を鍛え、その学びを自分の好きな文学作品の読解に活用させる方法を試した。しかし、単元の流れが生徒の思考の文脈から外れてしまった。そこで、実践2では、活用までをめざすのではなく、単元を通して、一つの文学的文章について検討することで、読みを繰り返し再構築させ、言葉に立ち止まる価値を実感させることを目指し、単元構成を、「つかむ」段階、「ふかめる」段階、「みいだす」段階に変更した。

- 「単元を貫く課題」や「Which 課題」によって「読みの視点」を焦点化することはできたが、文中の言葉を根拠として表出させるための手立てが口頭による指示に止まってしまったため、学習者の中で達成度に差が生じた。そこで実践2では、確実に言葉を根拠とさせ、それを明確に表出させるために、「Which 課題」に解答させる際に、「三角ロジックシート」を準備し、議論に活用させることとした。また、「みいだす」段階においても「ふかめる」段階で用いた「三角ロジックシート」をICT上で共有し、読みの再構築に活用させる。

(8) 実践と考察 (実践2)

① 単元名「小説の担当編集者として推薦書を作成しよう」

② 授業の実践と考察

ア 「つかむ」段階

この段階のねらいは、「単元を貫く課題」を提示し、「読みの視点」について整理する活動の場を設定することで、「読みの視点」を焦点化し、課題解決の見通しを立てさせることである。そこで、本単元では、中心に据える「読みの視点」を「人物描写」と「情景描写」とし、単元を構成した。

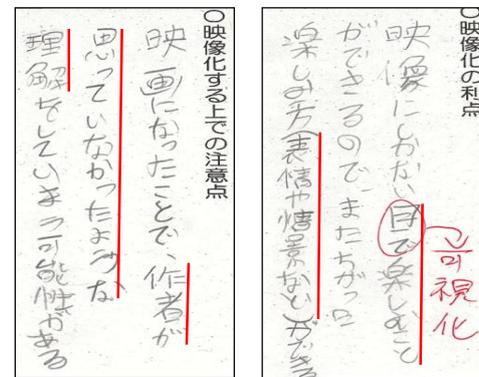
まず、『星の花が降るころに』を読ませ、話の概要や登場人物の関係、場面構成について表にまとめさせた。次に、「『星の花が降るころに』の実写映画化に向け、作者の担当編集者として、作品の魅力を推薦する推薦書を作成しなさい。」という「単元を貫く課題」を提示し、「読みの視点」について整理させた。ここでは、本単元の「読みの視点」が「人物描写」や「情景描写」であることをつかませるために、小説の映画化について賛成派と反対派で議論させた。

【資料1】は生徒が議論の際に作成した三角ロジックシートである。このような意見をもとに、生徒は、【資料2】のように、映画化する利点と注意点を整理した上で、【資料3】のように、振り返りシートに今後作品を読み深める視点について記述した。

【資料1】「つかむ」段階の三角ロジックシート

賛成	反対
<p>小説を映画にすると人物や情 事が多くかえりながら、情 事のほろがはつきりわかってい るものが、人物や情 事をよく内容が深く理解 できる。よきよき物語 を読むことができるから</p>	<p>色々の解釈がある文章 を、(情景描写など)を 一つの画像で表現する ことになり、読者の想 像が限定されるため。</p>

【資料2】「つかむ」段階の学習プリント



【資料3】「つかむ」段階の振り返りシート

映画化のメリットとデメリットについて話し合い、景色や人物の動きなどは可視化させることでイメージが膨らむよさがあると感じた。今後は、物語そのもののよさを失わないように繰り返し読み深めたい。

視点1

「つかむ」段階において、「単元を貫く課題」を提示し、「読みの視点」について整理する活動の場を設定したことは、「読みの視点」を焦点化し、学習の見通しを立てさせる上で有効であったか。

ここでは、「読みの視点」を焦点化し、学習の見通しを立てる生徒の姿を、映画化するからこそ際立つ描写をふまえた上で、課題解決のための読解の視点について、振り返りシートに記述する姿と捉える。

学級の生徒は、【資料2】のように、登場人物の表情や情景など、映像化するからこそ際立つ描写に関して記述していた。また、振り返りシートには、【資料3】のように、映画化するからこそ際立つ描写や物語そのもののよさに関して記述した。これらのことから、「人物描写」や「情景描写」に視点を焦点化し、文章ならではの作品のよさを重視しながら読解を進めていくという学習の見通しを立てたことがわかる。生徒は、映像化という「単元を貫く課題」の設定によって、「人物描写」や「情景描写」に着目する必要性を、また、編集者という立場の設定によって、作者が紡いだ言葉を重視する必要性をつかみ、課題解決の見通しを立てることができた。

以上の結果から、「単元を貫く課題」を提示し「読みの視点」について整理させる活動の場を設定したことは、「読みの視点」を焦点化し学習の見通しを立てさせる上で有効であったと考える。イ 「ふかめる」段階

この段階のねらいは、「人物描写」や「情景描写」を根拠として解答することのできる「Which 課題」を提示し、それに対する解答を「三角ロジックシート」に記述させ、小集団や学級全体で議論させることで、言葉に着目し、読みを追求させることである。





## 1 単元 「あなたはどちら派？提案文書を作成しよう」

## 2 指導観

- 選択肢に溢れる現代社会において、言葉の順序や表現の違いによって、相手に与える印象を操るフレーミング効果は、意思決定に大きな影響を与えている。表面的な意味だけで言葉を解釈するのではなく、微細な言葉に立ち止まりその効果を多面・多角的に検討する力が求められている。

本単元は、『少年の日の思い出』の二つの訳者の文章を比較しながら、登場人物の心情や行動について、文中の言葉を根拠として議論する活動を通して、微細な言葉の効果に着目して物語を読み味わうことができるようになることをねらいとする。学習内容としては、訳者による表現、心情描写や行動描写の効果、微細な言葉の働き、表現の効果への捉えなどがある。このような学習内容から、生徒は、表現の効果に着目して物語を読むことで、解釈を広げたり深めたりすることができることに気付くことができる。また、本題材は、ヘルマン・ヘッセ作の原文を、二人の訳者が微細な言葉に変化をもたせて翻訳したものであるため、その言葉をなくしたり他の言葉に置き換えたりして表現の効果と比較・検討する方法を習得することができる。したがって、本単元を学習することは、言葉を表面的に捉えるのではなく、微細な言葉から解釈の可能性を追求し、言葉を根拠として豊かに想像する力を育むことができるという点において大変意義深いと考える。

個人情報保護のため、  
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、「出版社の社員として、来年度の国語の教科書に、ヘルマン・ヘッセ作『少年の日の思い出』を掲載する上で、高橋訳と岡田訳のどちらを採用するか、作品の魅力を捉えた提案文書を作成しなさい。」という単元を貫く課題を設定し、課題解決に向けて、表現の工夫に着目しながら作品の魅力を読み深めさせたい。そのためにまず、二つの訳を読ませ、表現の違いをまとめ、読みの視点を整理させる。ここでは、課題解決の見通しを立てさせるために、それぞれの訳者の表現の印象を問う。次に、『少年の日の思い出』の魅力を追求させるために、登場人物のチョウに対する愛情の大きさについて議論させる。ここでは、文中の言葉を根拠として表出させるために三角ロジックシートを準備する。また、登場人物の心情につながる表現の効果に着目させるために、Which課題を提示する。さらに、「僕」の行動の是非について議論させる。ここでは、行動描写の効果に着目させるために、Which課題を提示する。また、言葉の働きについて言及させるために、言葉を比較する思考方法を例示する。最後に、提案文書を作成させ、互いの提案文書を評価させる。ここでは、多面・多角的な視点から読みを再構築させるために、ふかめる段階までに蓄積した三角ロジックシートを共有し、常時閲覧可能な状態にする。

## 3 目標

- 語句の意味する内容や表現の効果について、二つの訳を比較したり関連付けたりして整理することができる。
- 微細な言葉の働きに着目し、その表現の効果について、根拠を明確にして捉えることができる。
- 表現の効果に着目する価値に気付き、微細な言葉の働きを根拠として物語に対する解釈を広げたり深めたりすることで作品の魅力を捉えようとする。

4 計画 (10時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて(○), 研究に関わる手だて(◎)	評価規準
つかむ段階	2	1 学習課題を捉え、読みの視点を整理する。	◎ 表現の効果に着目させるために、物語を読む視点を焦点化する課題を設定する。	
		<p><b>【単元を貫く学習課題】</b>                  皆さんは、出版社の社員です。来年度の国語の教科書に、ヘルマン・ヘッセ作『少年の日の思い出』を掲載する上で、高橋訳と岡田訳どちらを採用するか、作品の魅力を抑えた提案文書を作成してください。</p> <p>(1) 高橋訳を読み、概要を整理する。                  ・登場人物の相互関係                  ・場面の展開</p> <p>(2) 作品を読み比べ、表現の違いについて整理する。                  ・訳者による表現の違い</p>		
ふかめる段階	5	2 『少年の日の思い出』の魅力を追求する。 (1) 登場人物の人物像をまとめる。 ・人物像につながる描写 (2) ～ (3) 「僕」と「エーミール」のチョウに対する愛情の大きさについて議論する。 ・心情につながる描写の効果	○ 描写を根拠に人物像を読み取らせるために、クラゲチャートを準備する。 ◎ 文中の言葉を根拠として表出させるために、三角ロジックシートを準備する。 ◎ 登場人物の心情につながる表現の効果に着目させるために、Which課題を提示する。	知：複数の語句を比較して、その違いを抑えることができる。 思：根拠を明確にして表現の効果を抑えることができる。 態：表現の効果に気づき、文中の言葉を根拠とした自らの解釈について、シートや議論を通して他者に伝えようとしている。
	本時	(4) ～ (5) 「僕」の行動の是非について議論する。 ・行動描写の効果 ・微細な言葉の働き	◎ 行動描写の効果に着目させるために、Which課題を提示する。 ◎ 微細な言葉の働きについて言及させるために、言葉を比較する思考方法を例示する。	
みいだす段階	3	3 作品の魅力を整りし、提案文書を作成する。 (1) 作品の魅力と魅力につながる表現の効果について意見交流する。 ・微細な言葉の違いによる印象の違い (2) 提案文書を各個人で作成する。 ・表現の効果 (3) 互いの提案文書を評価する。 ・表現の効果への捉え	◎ 多面・多角的な視点から読みを再構築させるために、ふかめる段階までに蓄積した三角ロジックシートを共有し、常時閲覧可能な状態にする。 ◎ 学習を活かした提案をさせるために、提出箱を参照しながら記述するよう指示する。 ◎ 言葉に立ち止まる価値を実感させるために、どのように作品を読み深めたか問う。	思：ふかめる段階までに追究した表現の効果について整理し、明確な根拠をもった提案文書をもつことができる。 態：表現の効果に着目することで解釈が広がることに気づき、今後の読書活動にいかそうとしている。

5 本 時 令和5年2月1日(水) 第4校時 計画 ふかめる段階の5 1年2組教室にて

(1) 主 眼

○ 「僕」の行動の是非について議論する活動を通して、表現の効果を捉え、作品中の微細な言葉の働きについて自分の考えをもつことができる。

(2) 準 備

①学習プリント ②三角ロジックシート (ロイロノート)

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて(○), 研究に関わる手だて(◎), 評価(◇)	形態	配時
<p><b>【Which 課題】</b> クジャクヤママユ事件について、あなたは「僕」を弁護するか、非難するか。</p>				
<p>1 言葉に対する解釈を比較する。 ・微細な言葉による印象の違い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 細かな言葉の働きに着目して、「僕」の行動に対する自分の考えを深めよう。</p> </div>	<p>① ②</p>	<p>○ 微細な言葉による印象の違いを捉えさせるために、解釈によって印象の異なる類義語を提示し、その印象を問う。</p>	<p>一斉 ↓ ペア ↓ 一斉</p>	<p>1 0</p>
<p>2 各グループに分かれ、課題に対する答えとその根拠について議論する。 ・微細な言葉に対する着眼点や解釈の多様性</p>		<p>◎ 道徳的な価値判断のみに基づいた主張でなく、言葉を根拠とした主張とさせるために、三角ロジックシートを指し示しながら、言葉に言及して主張を述べるように指示する。 ◎ 多様な視点から解釈を検討させるために、別の主張をもった他者を含めたグルーピングを行う。 ◎ 微細な言葉の働きを追求させるために、相手が着目した言葉に関する自分の解釈をふまえ、それらを比較しながら主張を述べるように指示する。</p>	<p>小集団</p>	<p>1 0</p>
<p>3 複数のグループの論点を取り上げ、学級全体で微細な言葉の働きについて掘り下げる。 ・行動描写の効果 ・微細な言葉の働き</p>		<p>○ 微細な言葉の働きを追求させるために、意図的指名を行い、いくつかのグループの着目した言葉について学級全体で取り上げ、その印象や働きについて議論する場を設定する。</p>	<p>一斉</p>	<p>1 5</p>
<p>4 「僕」の行動の是非について、自分の考えを再構築する。 ・微細な言葉に着目する意義</p>		<p>◎ 本時の読みの変容を自覚させるために、Which 課題を再度提示し、共有した他者の三角ロジックシートを参照しながら自らの読みを再構築するように促す。 ◎ 微細な言葉に着目する意義を実感させるために、議論を通して変容した考えや根拠が強化された部分について振り返るように促す。 ◇ 他者と議論した内容を踏まえ、微細な言葉の働きに言及した主張を示すことができたか。 ＜学習プリント分析、様相観察＞</p>	<p>個 ↓ 一斉</p>	<p>1 5</p>